13

浜離宮春秋図　川端玉章　対幅

絹本着色　明治十五年（一八八二）
本紙一三一・四×五六・三

明治十五年（一八八二）に開催された第一回内国絵画共進会の出品作である。内国絵画共進会とは、農商務省が中心となって開催した維新後初の官設の絵画展であり、明治十五年と十七年に東京上野公園で行われた。出品は日本画に限られていたことからも分かるように、維新後の洋画の隆盛によって衰退していた日本画を振興することが第一の目的であった。出品区分は流派によって分けられ、円山派は一派で第五区を割り当てられた。川端玉章（一八四二～一九一三）はこの共進会で銅印を受賞し、同時に本図は宮内省買上となった。

浜離宮の春の景と秋の景を描いた本図は、右幅では前景の松の茶屋越しに池の中をわたる藤棚の橋が見える。対する左幅では、手前の池ではマガモの群れが遊泳し、画面奥では紅葉した木々の中に燕の茶屋が見える。当時の新聞評の中には「水が例の油画然と」しているというやや批判的な指摘（『東京日日新聞』明治十五年十月二十四日）もあり、明治の初めに玉章が手がけた油彩画のイメージが人々に強い印象を与えていたことがうかがえる。だが、樹木の描法などを見ても本図には師の中島来章らの影響が色濃く認められ、円山派の基本的な描法が用いられていることがわかる。玉章はむしろ本図の制作後、明治二十年代から円山派の写実的画風に洋画風の陰影表現などを取り入れて画風の展開を図ることとなる。そうした意味で、本図は円山派としての玉章の素地が十分にうかがえる興味深い作例である。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

描き継ぐ日本美 ―円山派の伝統と発展
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 59

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十四年九月十五日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections